

松永さん、齋木さん、細川さん、故青山さん制作



永年保存選定作品と作家の(左から)松永泰樹さん、齋木俊秀さん、細川令子さん＝多治見市本町、東濃信用金庫本店

松永さんの「注ぐ形」は土瓶をデフォルメした磁器の集合体。ろくろと石こう型を組み合わせて独創的な形を作り上げた。齋木さんの「抱合Ⅳ」は織部をベイスにした創作釉「彩織部」で焼成。曲面美を追求し包み込むようなイメージが特徴。細川さんの青白磁「翡翠」は工房近くの池のさざなみから発想を得て、磁器ならではのシャープな表現にこだわった。特別永年保存選定作品に選ばれた青山さんの美濃古染付「山桜の図」は80代の作。地元の土と美濃伝統の技法で皿に大いに桜を描いた。

多治見市本町の同金

東濃信金の選定事業

東濃信用金庫の「美濃陶芸作品永年保存事業」の2016年度選定作品が30日発表され、松永泰樹さん(62)＝多治見市市之倉町＝、齋木俊秀さん(66)＝土岐市肥田町浅野＝、細川令子さん(57)＝土岐市泉町久尻＝と、今年1月に97歳で亡くなった青山禮三さん＝多治見市小名田町＝の4作品が選ばれた。(松尾法尋)

陶芸4作品、永年保存

庫本店で行われた発表会では、選定委員長の加藤幸兵衛さんが「選定発表は31回目となり、今回も陶芸文化の価値向上につながるはず」と話した。選定作品は4月から1年間、同市虎渓山町のとうしん美濃陶芸美術館で展示。同金庫が買い上げる永年保存作品は計93点となった。